
仮面ライダーオールスターズDX

桂 ヒナギク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーオールスターズDX

【Nコード】

N97310

【作者名】

桂 ヒナギク

【あらすじ】

突然、優の前に現れた門矢 士。彼は優にバックルとカードを渡して……

1・MASKED RIDER DECADE

異様な荒野。そこに佇む一人の少女、川島^{かわしま} 美香^{みか}。
美香が見つめる先では、沢山の仮面ライダーたちが戦っていた。
その中に居た一人の仮面ライダーが美香を見つめていた。

「ディケイド……」

美香はそう呟くと、夢から覚めた。

「また同じ夢……」

美香は起き上がり、ベッドから下りた。

「ディケイドって……？」

コンコン、と扉を叩く音がした。

「美香」

直後に少年が入ってきた。

彼の名は高山^{たかやま} 優^{ゆう}。美香の幼馴染みである。

「あんたまた勝手に人んち入ったわね」

「開いてたからな」

「家宅侵入罪で訴えるわよ」

「冗談きつい」

「で、何の用かしら」

「ああ、暇だからデートでもしようかと思ってな」

「で、デート!？」

驚き戸惑う美香。

（優が私をデートに誘うなんて）

「行くか？」

「もち」

「じゃあ外で待ってるな」

優はそう言つと部屋から出た。

その時、家の外から爆発音が聞こえてきた。

優は驚き、慌てて外に出た。

「何だ!？」

そこでは、沢山の怪物が暴れ回っていた。

「今の何!？」

と、家から出て来た美香。

「美香、怪物なんて実在したか？」

その時、二人以外の時間が止まり、かどや門矢 つかさ士が現れた。

「今、この世界に危機が訪れている」

士はそう言ってバツクルとライドブツカーを優に渡した。

「早く旅立て。お前が戻るまではこの世界の時間を止めておく」

「あの、いきなり何なんですか？ 井上 正大さん」

「俺は門矢 士だ」

「え、じゃあこれは本物？ ていうか意味分かんねえ」

「どうでもいいから早く行け」

士が言っと、二人の前に灰色のオーロラが現れた。

「これってもしかして……」

「行ってみようよ」

「そうだな」

優と美香はオーロラの中へ入った。

その様子を遠くから見ていた男は呟いた。

「おのれディケイドめ……」

2・クウガの世界

優と美香がオーロラを抜けた先は、見慣れない町だった。

「優、ここは？」

「クウガの世界かな」

「クウガの世界……か」

「まずはクウガを捜そう」

その時、二人の前に怪人が現れた。

「リントバ」

「美香、下がってろ」

優はバツクルを取り出して腰に装着した。

「変身！」

取り出したカードをディケイドライバーに挿入し、サイドハンド
ルを押し込んだ。

「K A M E N R I D E D E C A D E」

「クウガバ？」

「クウガじゃねえ！ ディケイドだ！ 覚えとけグロンギ！」

ディケイドはそう言いながらグロンギを蹴り飛ばした。

「ザセゼロバラパン。リントパリバゴソギザ」

「そいつ何て言ってるの！？」

「人間は皆殺しだよ！」

グロンギは体勢を立て直すと、ディケイドに体当たりをした。

「痛えな！」

ディケイドは反撃した。

パンチ、キックの連打にタツクルを決めるディケイド。

怯むグロンギ。

「今だ！」

ディケイドはカードを取り出してディケイドライバーに差し込んだ。
だ。

FINAL ATTACK RIDE D D D DECA DEY

十枚のカード状のホログラムが現れると、ディケイドはそこを通り抜けてグロンギに跳び蹴りを浴びせた。

ディメンションキックをともに受けたグロンギは爆裂霧散した。

「ディケイド……」

呟く美香。

ディケイドはサイドハンドルを引いて変身を解いた。

「美香、何で知ってたんだ？」

「夢で見たからよ」

「そうか」

「それだけ？　なんか他に聞く事ないの？」

「何をぶりぶりしてんだよ？」

「別に怒ってなんか……。所で、クウガはどうするの？」

「そうだな……。適当に歩き回ってみるか」

優は辺りを見渡し、マシンディケイドを見つけた。

「ちょうどいいところにバイクがある」

優はマシンディケイダーに駆け寄って跨った。

「優、あんた無免許でしょ」

優はポケットの中から免許証を取り出した。

「いつ取ったの？」

「いつでもいいだろ。さ、乗れ」

美香は優の後ろに跨った。

優はエンジンをかけて発進した。

東京都内の一角。

仮面ライダークウガが一人、グロンギと戦っていた。

「クウガ、ボソギデジャス」

「あ？」

「殺してやる、と言っ たんだ」

「こんなところで死ぬ訳にはいかない！」

クウガはグロンギにマイティキックを浴びせた。

「そんなものは効かないぞ！」

だが、反撃を受けて倒れてしまった。

「くっそ……！」

その時、マシンディケイダーが現れ、グロンギに体当たりをした。

「お前の相手は俺だ」

ディケイドはマシンから降りるとファイナルアタックライドを発動してグロンギを粉砕した。

「大丈夫か？」

ディケイドはクウガに手を差し伸べた。

「あんた誰だ？」

「高山 優だ。覚えとけ」

クウガはディケイドの手を取り立ち上がった。

「俺は黒沢 悠輔。助けてくれて有り難うな」

ディケイドはサイドハンドルを引いて変身を解いた。

それに続いてクウガも二枚目の男性に姿を変えた。

3・対クウガ

黒沢家の一室。

「へえ、それじゃ、あんたらは別の世界から?」

「ああ」

「何か信じがたいな。グロンギの仲間なんじゃないか?」

「誰が。俺は仮面ライダーだ」

「仮面ライダー? 何だそりゃ」

「気にするな。それより、俺がこの世界で何をすべきか探さなくては」

「黒沢さんを手伝ったらいいんじゃない?」

「ならば早いとこグロンギを殲滅しないとな」

優は立ち上がり様にそう言った。

「どっか行くの?」

「グロンギと戦ってみる。そうすれば何か分かるかも知れないからな」

優はそう言つと、颯爽と家を出て行つた。

「私たちも行きましょう」

「うん」

美香、悠輔も家を出て優の後を追つた。

「優の奴どこ行つたのよ!」

優を見失つた美香はそう叫んだ。

「美香ちゃん、落ち着いて」

美香を宥める悠輔。

その時、グロンギが現れた。

「リントパリバゴソギザ」

「美香ちゃん、下がって」

悠輔は美香を庇うように前へ出た。

「悠輔さん!？」

悠輔は腹部に手をあてがってベルトを出現させると、「変身!」と叫び、仮面ライダークウガに姿を変えた。

「クウガバ」

その時、どこからともなくマシンディケイダーに乗った優が現れた。

「そいつは俺の獲物だ!」

「優!」

「変身」

優はバイクから降りると、予め装着しておいたバックルにカードを差し込んでサイドハンドルを押し込んだ。

ハ K A M E N R I D E D E C A D E ヽ

マシンヴォイスの直後、優は仮面ライダーディケイドに姿を変えた。

「あれがディケイド……」

「さて、丸焼きにしてやる」

ディケイドはそう言ってグロングに飛びかかった。

だが、クウガが邪魔をし、更に攻撃をした。

「聞いていた通りだな、悪魔が!」

「恩を仇で返す、か!」

「ちよつと、何してるの!？」

「正気か、クウガ?」

「うるさい!」

と、ディケイドの顔面を殴るクウガ。

「そうか。ならば相手してやる」

ディケイドはグロングを無視してクウガに攻撃を仕掛けた。

顔面を殴り、怯んだ隙に蹴り飛ばすディケイド。

その様子を離れた場所から見ていた鳴沢は呟いた。

「ディケイド、ここがお前の墓場だ」

すると、灰色のオーロラが現れ、キックホッパーとパンチホッパーが出て来た。

二体はディケイドに接近して……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9731o/>

仮面ライダーオールスターズDX

2011年1月14日21時40分発行